

# 5/2 成田支部結成大会大成功！

日刊 動労千葉

79.5.4

No. 110

国鉄動力車労働組合

千葉地方本部

千葉市要町二一八(動力車会館)  
鉄電二三五八九・公衆電話(22)七二〇七

成田支部結成大会は五月二日一七時三〇分より成田運転区講習室に八二名を結集して開催され、暴力集団の破壊策動をよせつけず圧倒的成功をかちとった。4・28〜5・1の動労「本部」の名をもつてする組織破壊暴力「オルグ」を敢然とはね返した新生動労千葉の勝利を高らかにうたいあげ、同時に三里塚・ジェット闘争の基軸を握りしめていた最先端の拠点支部としての不拔の戦闘力を宣言するものとして、この成田支部結成大会の圧倒的成功の持つ意味は重大である。

破壊「オルグ」をはね返して  
かちとられた結成大会！

大会は成田支部高木副支部長の開会のことばをもって始まり、成立宣言・議長選出につづき、日暮支部長より「われわれは四日間の破壊「オルグ」を完全にはね返し勝利した。暴力集団は成田支部においても空巢ねらいのように機労以来の貴重な資料をダンボールに幾箱も盗んでいった。焦る暴力集団は、腹いせに今日も新小岩や乗入先で勤務中の仲間を脅迫しているが、こんなやり方で労働者の心をつかめるはずがない。われわれは、ほとんど一〇〇%の団結署名を勝ちとり本日の結成大会を迎えた。

今回の闘いを通じて一四〇〇名は着実に前進した。今後またとえ苦難の道であろうと支部一三九名の団結で正しい道を前進していこう」と、力強い決意をこめた挨拶が行われた。

四月の統一地方選で成田市議として堂々当選を勝ちとった三里塚反対同盟・北原事務局長、中江前中央本部副委員長、動労千葉・中野書記長の来賓挨拶の後、支部森内書記長からの「強固な組織体制の確立と三里塚・ジェット闘争を軸とした方針提起」、古川書記次長よりの「支部規約」の提起をうけ、質疑討論の後スローガンとともに全体の圧倒的拍手をもって確認し、日暮支部長を先頭とした執行部を満場一致承認し、「団結ガンパロ」をもって結成大会を終了した。

この「5・2成田支部結成大会」の成功は、連日の激闘の中でこそ増々団結を固め前進する動労千葉の勝利と、それと実に対照的に、来れば来るほど消耗し、混乱し、内部亀裂に苦しみが「本部」暴力集団の敗北に没落を何よりも鮮明につき出しているのである。

ぶきよ上なる不信と不協は本部大あちて  
破壊四日間の総括で内部キレム深まる

「四日間オルグで」再建千葉地本」の旗上げを、事前に記者会見までして大みえを切つて強行された、今回の「大がかり」な破壊「オルグ」は、わが動労千葉一四〇〇の英智と団結、多くの労働者・人民の支援の前にみごとに粉碎され、五月一日午後、「何らの成果も上げられなかった」

(千葉運転区前「総括集会」での立石門司地本副委員長の実に卒直な総括発言) まま、疲労こんぱい、不満ぶつぶつで意気消沈のまま引き上げざるを得なかった。

おまけに東京・社会文化会館にくたび切つて帰ってきた一〇〇〇名の「オルグ」団に、「本部」暴力集団中枢が提起した『総括』たるや『千葉に行けたこと自身が偉大な成果であった』というのだから笑止千万ではないか。城石組織部長、青木書

記長よ、「再建千葉地本」はどこへ行ってしまったのか? 「組合員確認書」なるものはどうなったのか?

「七九春闘」も「統一地方選」も、さらには「メーデー」さえも放棄して、組合費を湯水のように浪費してのべ「一三〇〇〇人」を文字通り四日間で自らの敗北を塗りかくそうとしても無理である。すでに深々とうえつけられた「本部」暴力集団の指導への不信は、ますます深く拡大している。

今や、「正義」と「不正義」、「勝利」と「敗北」はこの上なく鮮明となった。「本部」暴力集団の引きまわしを粉碎し、今こそ全国至る所から動労大改革へ意気高く前進しよう!